

# 市営縦貫鉄道の事業計画を廃止

29.6.2

半世紀に及ぶ構想断念

川崎市は1日、市議会ま

日

ちづくり委員会で、新百合ヶ丘駅—川崎駅で計画していた川崎縦貫高速鉄道（市営地下鉄）について、計画を廃止する方針を明らかにした。市内を走る地下鉄は50年以上前に構想されたが、多額の費用を主な理由に取りやめることになったという。

市によると、複数の地下鉄駅の設置が検討されていた市北部については路線バスの拡充などを検討し、今年度に見直す市総合都市交通計画で示す。

国の審議会は2000年、地下鉄について「15年までに開業すべき路線」と答申。01年には一部の事業許可も出た。当初は元住吉駅を経由する予定だったが、人口が増える武藏小杉駅を通るルートに改めるなど、計画を検討してきた。だが、新百合ヶ丘駅—武藏

小杉駅だけで4千億円以上の事業費が必要となる見通しで、市は13年、中期的に行う事業と位置づけを変更。その後に計画を「休止」としていた。（河井健）